

Apple 日本市場を独占

—日本のスマートフォン出荷台数は 2018 年第 4 四半期に 3.8%減少

—Apple は 56%のシェアで日本市場を独占

パロアルト、上海、シンガポール、レディング（イギリス） - 2019 年 2 月 21 日火曜日

日本は、2018 年第 4 四半期の出荷台数が前年同期比 3.8%減、四半期出荷は前年同期比で、4 年連続減少となった。出荷台数は 2018 年第 4 四半期に 990 万台に達し、中国、アメリカ、インドに次ぐ第 4 位となった。2018 年の日本市場での出荷台数は 1 年間で 3250 万台となり、前年比減 1.9%となった。

スマートフォン市場における日本の業績不振は高額な携帯電話料金、機器価格の増価、機器買い替え年数の長期化が影響を及ぼしている。また、総務省(MIC)と公正取引委員会(JFTC)により携帯電話事業者に対する助成金に上限が設けられ、助成金支給が削減されたことによりシェア率 NO.1 である Apple は特に打撃を受けた。また主要通信事業者による最低 48 ヶ月の契約ルール、その他規制強化により機器買い替え年数長期化を助長する結果となった。その一方で格安スマートフォン、格安 SIM 市場にとってより多くのチャンスとなった。



Apple 日本市場を独占—スマートフォンにおける日本市場は 2018 年第 4 四半期に 3.8%減少したにもかかわらず、Apple は 56%のシェアで日本市場を独占
—2018 - via @Canalys <https://tinyurl.com/y6cxbvu7>

Apple の第 4 四半期の出荷台数は 10.5%下落した。しかし Apple は依然として日本市場を独占しており、2016 年には 48.2%、2017 年には 48.0%、2018 年遂に年間 50%を超えるシェア率となった。第二位である Sharp は、11%の市場を占める結果となった。Android ベンダーにとって、スマートフォン市場のシェア競争はますます激化している。シャープ、ソニー、京セラ等の日本企業は未だ日本市場のシェア率を占めており、Samsung、Huawei、Google などの海外企業はシェア率確保の為様々な戦略を打ち出し躍進を祈る。

2019 年の日本市場は、前年比 2.7%の緩やかな減少となる一方で、規制当局からの圧力により、最大 40%のモバイル料金値下げが起こり市場のダイナミクスが変化する

るだろう。また補助金や優位なプロモーションによる大手通信業者の依存が強いシャープや京セラなどの日本企業は、さらに大きな打撃を受けることになるだろう。また MVNO やオープンチャンネルを介して、ミドルレンジからローレンジ向けのスマートフォン市場が成長するだろう。さらに、2019年10月に通信キャリア（MNO）として、携帯電話事業に参入する楽天（楽天モバイルネットワーク）が第四の携帯キャリアとなり、市場内での競争がさらに激化するだろう。なお、国内最大通信事業者は2020年の東京オリンピックでの5G商用化に向けて国内でさまざまな実証実験を進めている。国内大手3大通信事業者は、モバイル費用規制がさらに強化されることで収益に影響を及ぼし、投資資金繰りが困難となることが予測される。



Vendor highlights

Apple は2018年第4四半期の市場シェアは2017年第4四半期の60%減の56.0%となった。出荷は前年比減10.5%と市場全体でも急激な減少となった。

第4四半期のAppleの出荷数のうち39.8%はiPhone XRであった。

主力シリーズのXSとXS Maxは、前身であるiPhone Xの第4四半期時の出荷数より減少の合計140万台となったが前者よりも低価格設定であるXRの売れ行きが好調であったこと、またiPhone XRは高価格によるXSシリーズの低需要を補う為に大手通信事業者から多額の補助金を受けた。アップルの平均販売価格(ASP)は794ドルから744ドルと減少となった。

ローエンドセグメント市場では、Docomoの「Docomo with」計画により、iPhone 6sの出荷が増加となった。2019年Appleにとっての最大の課題は、通信事業者の補助金、流通市場、Huaweiなどの海外企業との競争激化の中で、その優位性を維持することである。

シャープ、ソニー、京セラおよび富士通にとって苦しい一年となったが主要通信事業者からの斡旋販売等の強力なサポートのため今四半期に 25.2%の総合市場シェアを維持したが 2019 年の日本企業の見通しは前年度に続きますます厳しいものとなるだろう。

5 位の **Samsung** は、苦しい状況下で前年比増 10.1%を達成し出荷台数は約 68 万となった。この成功の大部分は S9 および S9 ノートの需要によるものだ。

特に日本消費者向けの中ドレンジスマートフォン「ギャラクシーフィール 2」の人気により、四半期比で 168%の成長を遂げた。

その一方で **Samsung** は **Huawei** や **Oppo** など、日本で認知度を高めている中国企業の飛躍に今後の成長を危惧する。

詳しくは下記までご連絡ください

Canalys EMEA (イギリス): +44 118 984 0520

Ben Stanton: +44 118 984 0525

Kelly Wheeler: kelly_wheeler@canalys.com +44 118 984 0529

Canalys APAC (上海): +86 21 2225 2888

Nicole Peng: nicole_peng@canalys.com +86 21 2225 2815

Mo Jia: mo_jia@canalys.com +86 21 2225 2812

Canalys APAC (シンガポール): +65 6671 9399

Rushabh Doshi: rushabh_doshi@canalys.com +65 6671 9387

Shengtao Jin: shengtao_jin@canalys.com +65 6657 9303

Canalys パロアルト: +1 650 681 4488

Vincent Thielke: vincent_thielke@canalys.com +1 650 656 9016

Marcy Ryan: marcy_ryan@canalys.com +1 650 681 4487

Canalys について

Canalys は、テクノロジー業界の将来についてクライアントを指導し、古いビジネスモデルを超えて考えることを目指している独立系アナリスト会社です。当社は、世界中の IT、チャネル、およびサービスプロバイダの専門家に市場の洞察を提供します。私たちは提供されるデータの品質、革新的な技術の使用、および高レベルのカスタマーサービスに対する当社の評判を尊重します。

メディアアラートを直接受信するには、または当社のイベント、サービス、カスタムリサーチおよびコンサルティング機能に関する詳細については、当社の Web サイトのお問い合わせフォームに記入してください。または、press@canalys.com に電子メールを送るか、+1 650 681 4488（米国カリフォルニア州パロアルト）、+65 6671 9399（シンガポール）、+86 21 2225 2888（上海、中国）、または+44 118 984 0520 までお電話ください。（レディング、イギリス）。

[Please click here to unsubscribe](#)

Copyright © Canalys 2019. All rights reserved.

Americas: Suite 317, 855 El Camino Real, Palo Alto, CA 94301, US | tel: +1 650 681 4488

APAC: Room 310, Block A, No 98 Yanping Road, Jingan District, Shanghai 200042, China | tel: +86
21 2225 2888

APAC: 133 Cecil Street, Keck Seng Tower, #13-02/02A, Singapore 069535 | tel: +65 6671 9399

EMEA: Diddenham Court, Lambwood Hill, Grazeley, Reading RG7 1JQ, UK | tel: +44 118 984 0520

email: inquiry@canalys.com | web: www.canalys.com っし